

対象年度		令和 5年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		畜産業振興事業						予算事業名		畜産業振興事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令						
				06	01	05	11	経常経費							
総合計画体系		歴史と自然を育み にぎわいと活力ある産業を目指そう						事業の区分		主要事業					
		特色ある農業の振興と活性化													
		活力ある産地の育成						担当課係等		農政課 農業係					
事業期間		継続 (年度～ 年度)													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
ワクチンの予防接種や疾病検査により安全な農産物を生産し、殺虫剤等を散布することにより環境対策を行い、畜産経営の安定化を図る。								家畜伝染病の流行により、畜産農家の家畜伝染病への対策に係る経費や衛生環境対策に係る経費が年々増加してきているため。							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
養豚農家及び牛飼養農家が行う家畜のワクチン接種に対して助成を行う。 畜舎及び堆肥舎等に使用する殺虫剤等の防疫資材の購入に対して助成を行う。 県主導で行うＣＳＦワクチン接種の手数料徴収事務を行う。								結城市家畜畜産物衛生指導協会 市内畜産農家							
								【事業をとりまく環境の変化】 畜産農家は飼料高騰、家畜伝染病の発生増加によるワクチン接種及び消毒剤等の衛生費増加等により、非常に厳しい経営状況にある。そのため畜産農家からの支援の要望は多いため、ニーズにこたえる必要がある。平成３０年度から全国的にＣＳＦ（豚コレラ）が、また、令和２年度からはＨＰＡＩ（高病原性鳥インフルエンザ）が流行している。これらの疾病の発生時には飼養畜が全頭殺処分となり、その対策は市内畜産農家の経営を守るために必須である。							
【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】							
家畜伝染病に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うＣＳＦワクチン接種の手数料徴収事務を行う。				家畜伝染病に対するワクチンの予防接種に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うＣＳＦワクチン接種の手数料徴収事務を行う。				家畜伝染病に対するワクチンの予防接種及び４年に１度行われる牛疾病検査に対して助成を行う。 畜舎の環境衛生のために、殺虫剤などの防疫資材の購入に対する助成を行う。 県主導で行うＣＳＦワクチン接種の手数料徴収事務を行う。							
■事業費															
				R03年度		R04年度									
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0								
	県		支	出	金	0	0								
	地		方		債	0	0								
	そ		の		他	10,635	7,001								
	一		般	財	源	3,038	2,919								
歳 入 計 (千 円)				13,673		9,920									
歳 出 内 訳	節 (番 号 + 名 称)			金額 (千円)		金額 (千円)									
	17 備品購入費			439		0									
	18 負担金補助及び交付金			13,234		9,920									
歳 出 計 (千 円) (A)				13,673		9,920									
伸 び 率 (%)						-27.44									
備 考	総合計画84ページ 予算書132ページ														

令和 3年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R03年度	R04年度	R05年度
活動 指標	事業周知戸数	戸	目標	19.00	19.00	19.00
			実績	19.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	オーエスキー病ワクチン接種戸数	戸	目標	7.00	6.00	6.00
			実績	6.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	食の安全に対する消費者ニーズの高まりにより高品質の畜産物が求められており、また担い手の減少している生産者への支援は不可欠である状況の中、畜産振興を図るために重要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	生産者の意欲を高め、畜産物の品質向上により経営の安定化を図ることができる。衛生管理の指導、法的な問題への対応などは行政が行うべき事業であるため、妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	補助事業は市が関与する方法が一般的であり、問題はない。 家畜防疫負担金についても、県の条例に基づき市が行うと定められており、妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	B どちらとも言えない	補助事業による支援が必要な中、豚オーエスキー病ワクチン接種に対する補助など、以前と比べ利用者が減少している事業もあるため、コストの割振りを随時見直す必要がある。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	事業は全畜産農家を網羅できるよう実施されており、問題はない。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	「効率性」の項目にもあるように、ワクチン接種の中には目標としている清浄化が近づいてきている疾病に対するワクチン接種もある。最終目標はワクチンを打たなくてもよい状況を作る事であるため、どちらとも言えない。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	順調に進んでいる。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
畜産関連の事業にあっては、様々な家畜伝染病の発生に柔軟に対応する必要がある中で、ワクチン接種や衛生対策を行うとともに、事業者の高齢化問題や担い手不足などの問題に取り組むために、次の事業へと展開していくことも必要であると考えられる。目下の問題ではなく、将来を見据えた経営体制づくりが重要である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
生産者に各事業の内容を説明すると共に、目的を周知し地域の意識が統一され、一体となった防疫体制を作る。 家畜防疫事業に関しては、オーエスキー病の清浄化によりワクチン接種を中止できる可能性もあるため、次なる事案を考案し、その予算に充てる事ができるようワクチン接種を推奨していく。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 畜産業の経営安定と振興を図り、家畜伝染病の発生及び蔓延を防止するため、防疫指導を行いつつ、家畜伝染病の発生状況や畜産環境対策を常に検証しながら事業を改善し行っていく必要がある。
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。